

日本の宝を燈す文化祭

第8回

勝福寺寶燈展

備前焼の粹

作品に垣間見る陶工の魂

平成29年4月22日 土

観覧無料

午前9時30分▼午後4時30分

主催 徹林山勝福寺
会場 勝福寺客殿

(岡山県総社市久代3438)

応永の大宰時代に作られた鐵環付の種壺。
約六〇〇年間の年月が
備前の歴史を物語っている。
桂又三郎は「天下の名品」と称賛。



種壺(室町初期)



記念講演 (予定)

演題「備前焼について」

備前焼陶芸家

岡山県重要無形文化財

松井與之 先生



午後13時30分～14時30分頃
定員約70名(先着順)

無料

講演中は展示物をご覧頂くことは出来ません。
悪しからずご了承下さい。



当日、お茶席を
開催いたします。
一席三〇〇円
お茶席開催時間
午前10時▼午後3時まで

題字／京都仏画研究所

代表絵師 大里宗之氏

画／木工芸家

林鶴山氏(岡山県無形文化財)

挿絵／富永洋氏



伝統を今に生かし、時代の一步先へ

宗教法人 真言宗 御室派



徹林山 勝福寺

〒710-1201 岡山県総社市久代3438
TEL 0866-96-0615 FAX 0866-96-2233
ホームページ <http://www.geocities.jp/gikoo/>

象水滴 金重陶陽(昭和7年頃)



臨時
駐車場の
ご案内

お寺の駐車場が満車の場合、総社市消防署「西出張所」西側の
駐車場を臨時駐車場としてお借りしています。そこから勝福寺までは
徒歩で約10分(500m)です。

総社市消防署西出張所 | 総社市久代2635-1/Tel.0866-96-1196

細工物の名手。
花鳥や置物、手造り宝瓶に名品が多い。
特に蛙の細工が秀でており、
「蛙仁堂」の異名を持つ。



鳳凰香炉
初代・大饗仁堂 (1890~1954)

備前焼中興の祖。人間国宝。
桃山備前の再興に尽力し、
その陶技と眼識力は卓越。
銘「小太刀」



茶杓
金重陶陽 (1896~1967)

茶器の作陶に精通した楽山。
この茶入は胴径6.5cm×高5.7cmと
小振りながら、
その堂々たる存在は逸品。



茶入
初代・藤原楽山 (明治~大正期)

食塩窯を考案し、青焼(塩焼)に成功。
茶器、香炉を得意とした。
窯を密閉して還元焼成させ、
酸化部分はこのような
美しい朱色となる。



茶盃
初代・藤原楽山 (明治~大正期)



象耳円座花生
江戸中期
高22cm 口径13cm



宝珠香合 金重陶陽
大正期~昭和期



彩色備前 布袋香合 金重陶陽
昭和8~9年



般若心経宝瓶 石井不老
昭和初期



煎茶入 難波好陽
昭和期



苦舟香炉 金重窯
明治~大正期



瓢杓筒
大正期



灰匙 金重陶陽
大正後期



古備前管耳付木指
江戸初期
高18.5cm 口径13.1cm 胴径18.7cm



水注 初代・大饗仁堂
大正期~昭和期



水注 久本葛尾
明治期

第八回 勝福寺寶燈展

「備前焼の粋」の開催に寄せて

日本の伝統文化を燈したいと始まった勝福寺寶燈展も、今春第八回目を迎えます。日本には世界に誇る伝統文化が数多く存しますが、当山では文化の象徴である「茶の湯」「煎茶」「生け花」「御香」等の精神世界に思いを致し、それらの各種道具を展示、観賞頂いております。卓越した職人技と美意識が醸す工芸品を現代、そして後世に繋げる一助になればと願ひ、文化全般の並々ならぬ重要性を提唱するものです。

現代の世は知識人が多く、物質的には大変恵まれた文明社会になりました。しかし、精神社会においては、智慧と慈悲の欠如が一因となり、道徳心が問われて久しいのもまた現実です。生活環境も著しく多様化していますが、賢者に習った生活を送っている、道は自然と正しい方向へ開けてまいります。私達の生活環境は十人十色ですが、流れる時間は皆平等です。その一瞬一瞬の過ごし方によって、様々な価値観、感情にも差異が生じます。私達は目先の欲望に翻弄されることなく、かけがえのない尊い人生を大切に過ごしていかなければならぬのであります。

私達は野に咲く花、森の空気や水辺のせせらぎ、優しい香り、美味しい食べ物、温かな人の心などに接することで、不思議と五感(眼・耳・鼻・舌・身)が浄化されたような体験をされたことはないでしょうか。そこへ、先人達が遺した生活の智慧を取り入れることで、心は自ずと活性化してまいります。

さて、今回は「備前焼」を取り上げます。備前焼の歴史を紐解けば、平安末期の須恵器にまで繋がり、室町初期の応永年間(一三九四~一四二七)には、多くの陶工達により種壺などの農具が作られていたことを窺い知ることが出来ます。その後、花瓶、酒壺など様々な生活道具へと幅を広げ、天正年間(一五七三~一五九二)になると、「工人始め茶壺を造る、後世称して古備前」といふ(明治期刊行の工芸書)とあるように、自然生成に富んだ味わい深い焼き物は著名な武将達の庇護を受け、隆盛を極めます。時代の静動と共に、栄枯盛衰の波はあるものの、その焼成が持つ素朴さに、人々の心は時空を超えて魅了されています。

例えば生活空間に、生花を生けた備前焼の花入が一つあるだけでも心は落ち着きます。良い道具は人の心を育み、時には心を癒やし、心の資質まで向上させる力を併せ持つてゐるのです。

本展では備前焼の茶具類と細工物を中心に、約三十点の作品を展示予定しております。室町初期に作られた種壺、備前焼中興の祖と称される金重陶陽氏の茶杓「小太刀」は、茶の湯へ込めた氏の魂が見て取れる神秘的な逸品です。

そして、この度は備前焼の陶芸家・松井與之先生(岡山県重要無形文化財を講師にお迎え致し、「備前焼について」という演題でお話を頂く予定にしております。お席に限りはございますが、どうぞ、皆様のご来山をお待ちしております。

最後に、寶燈展の開催にあたり、多大なご協力を頂きました勝福寺檀信徒並びに、関係各位に厚く御礼申し上げます。 合掌

平成二十九年三月

徹林山勝福寺 住職 江原 義空 拜



扇徳利
江戸期



次回の「寶燈展」は
「生け花と仏画展」
を予定しております。

その他の
催しもの

■ 写経体験 (予定)
本堂において
一奉納 1,000円

本堂にて開催される
各種行事の案内です。
詳しくは本堂にお尋ねください。

■ 将棋コーナー
囲碁コーナー
(予定) 無料

